

野生生物の知見全国大会における主な意見

知見収集研究メンバーからのコメント・アドバイス

環境省へ：

- ・長期観察は人的・物的資源が必要で、個人で継続するのは非常に困難であるため、社会財政が必要。この事業で仕組みづくりが進んで、自然観察者に対して行政が取り組むべき支援を行ってほしい。
- ・野生生物の観察・調査についてのメタデータを整理するのが最も急務である。また、実データ整理の支援を考えるなど動いてほしい。
- ・魚類学会では放流のガイドラインを作成している。他の生物についても何らかの参考になるものが示せればよい。
- ・観察者間のネットワーク構築は難しい課題であるが、まず身近な野生生物の観察委員などを作ってはどうか。既存の生態学会などは研究者の集まりであり、一般の人が参加するのは難しいと思う。その際、誰を対象とするかなどのルール作りは必要である。また、同じテーマの観察者で横のつながりは既にあると思うが、さらに異なる種の同じフィールドでのネットワーク（ローカルネットワーク）ができれば、日本の生物の多様性が明らかになってくるのではないか。
- ・生き物好きの若い人が減ってきており、今日の大会でも若い世代が少ない。行政、研究者サイドからの支援が必要ではないか。今日の大会が新たな起点となってほしい。
- ・このような会を環境省主催で観察者と1：1で行なうと、対立しているいろいろな問題がでてくる。環境行政、観察者、中間に座長という形で、問題をひとつずつ解決していくという構図のほうが良いのではないか。
- ・今回の発表の多くが陸上生物であったが、様々な野生生物がいるので、すべて観察の対象とすべき。
- ・野生生物観察者ネットワーク作りを実現させるための戦略は難しいのでは。ネットワーク作りはよいが、そこでどう環境省が係わってくるのか目的がわからない。
- ・日本の環境で何を考えなければいけないか、どういう枠組みが必要か、データをどう活用していけるのか、といったところが行政の課題。

観察者へ：

- ・調査にあたっては、頻度によっては生息場所が破壊されるなど生態系への影響があるので、観察者は注意が必要である。
- ・ピオトープは、観察データと同時に、どのように管理したかのデータを取ることが重要である。
- ・観察の結果がなぜそうなったのか、というメカニズムについて考察してみるとよい。調べ方の工夫があればよい。
- ・他の生物との関わりが重要な要因となることが多いので、自分の観察対象種以外の生物についても目を向け、近隣の異なるテーマの観察者と情報交換するなど協力してみるとよい。

発表者からの意見

- ・外来生物の駆除において、ブラックバスではバスポストがある。ほかの外来生物についても、行政で何らかの支援を行なってほしい。
- ・環境省と野生生物の観察者が同じビジョンであれば、観察者側はいくらでも協力できる体制はある。まず、環境省のビジョンを明確にしてほしい。
- ・ビオトープなどは数々あるが、管轄主体がそれぞれ異なるなど一般の人が関わるには管理構造が複雑である。国土交通省などの事業との連携をとる必要がある。このような事業は環境省主導で行なうべき。
- ・野生生物の観察を継続するには個人では負担が大きいため、国からの賛助が必要。
- ・若い世代と繋がるためのネットワークが必要。若い世代に受け継いでいくためにも、もっと若い人を参加させるべき。